

# 芦花年譜

(辻橋、平林)

年	次	年齢	生 活 ・ 作 品	社 会 ・ 文 化 ・ キ リ ス ト 教
1868	明治元	1	10・25 熊本県葦北郡水俣に父一敬の三男として生まる	1・5 横井小楠殺さる 3・4 五ヶ条の誓文
1871	4	4		7・14 磨藩置県 8・15 熊本洋学校にジェーノンス着任
1872	5	5	顔一面に腫物生じ長く癒えず	3・10 日本基督教会設立 12・1 徴兵令発布
1873	6	6		2・19 切支丹禁制の高札撤去 7・28 地租改正条令公布
1875	8	8		11・29 新島襄同志社創立
1876	9	9	熊本洋学校入学 8月兄(蘇峰)上京同志社に入る	1・29 熊本洋学校生徒花岡山にて結盟 7月 同校第一回卒業生を出す 10・24 神風連の乱
1877	10	10		1・14 地租軽減の詔発布 2・15―9・24 西南戦争
1878	11	11	6月 兄に伴われて同志社入学	6・2 内村鑑三ハリスより受洗
1880	13	13	6月 兄と共に同志社中退、熊本に帰る	4・11 集会条令公布 4・19日 日本訳新約聖書完成
1881	14	14	母に連れられて教会に入る	10・29 自由党設立
1882	15	15	3月 兄設立の大江義塾に入る	1・4 軍人勅諭発布 11・11 板垣退助等外遊
1883	16	16		4・16 新聞紙条令改正 7・7 鹿鳴館開館
1884	17	17	母久子受洗、共に教会に出席し、キリスト教の信仰に近づく	3・16 地租条令改正 10・29 自由党解党、同志社にリバイバル起る
1885	18	18	3月 熊本三年坂のメソジスト教会にて、姉充子と共に牧師飛鳥賢次郎より受洗直ちに今治の伊勢時雄方に赴く	11・23 硯友社創立 12月 東海散士「佳人の奇遇」
1886	19	19	6月 入浴 9月 同志社に再入学	11・23 大阪事件 12・23 内閣制制定
				鉄道、紡績を中心に企業熱勃興 1・28 六個師団設置

1902	1901	1900	1899	1898	1897	1896	1895	1894	1893	1892	1891	1890	1889	1887
35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	20
35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	20
くや 兄との疎隔深まる (国民新聞)	1・26より「黒潮」 国民新聞連載 8月「青声集」刊	5・15「思出の記」刊 12・18「ゴルドン將軍」刊	1・15「不如帰」刊 3・3「13「灰娘」を、3・23 より「思出の記」を国民新聞連載 8・18「自然と人 生」刊 10・4 東京市外原宿に移る	3・25「青山白雲」刊 11・29より「不如帰」国民新 聞に連載しはじむ	6月 兄、松隈内閣の参事官となり、12月辞す 1・3 逗子柳屋に居を移す 4月、「トルストイ」刊	5・26「真なる詩、自然なる歌」 政治視察のため、欧米漫遊の途に上る	8・1より9・25までゴーゴリのタラス・ブルバを「老 武者」と題して国民新聞に訳載	5・5 原田愛子と結婚 7月氷川町勝海舟邸内に借家す	7月 「近世欧米歴史の片影」刊	11月 「グラッドストーン伝」刊		2月 国民新聞社入社 4月「モルトケ將軍」を書く	9月 「如温・武雷士」刊 兄経營の民友社入社、文筆生活に入る	山本覚馬の娘久米との恋愛を説論され、12月京都出奔
1・30 日英同盟調印	6・2 社会民主党結成即日禁止 6・3 社会平民党と 改称するも又即日禁止 20世紀大挙伝道実施、植村海老 名神学論争始まる	3・9 治安警察法公布 4月「明星」創刊 5・15―8 14 北清事変 9月「聖書之研究」創刊	7月 条約改正実施	6月 「六合雜誌」「宗教」を合しユニテリアン協会より 発行 8月「国民之友」廃刊	1月 日本基督教青年会同盟成立 3・1 片山潜キング スレー館設立 3月より足尾銅山欬毒事件起る 7・5 労 働組合期成会結成	3・1 進歩党結成 3・14 陸軍十三個師団に増加 大 西祝「社会主義の必要」	1月「太陽」創刊 4月 日清講和条約調印 5月 三國 干渉 11月 自由党政友会と合流して名実共に亡ぶ	5・16 北村透谷自殺 8・1 日清戦争開始	1月 「文学界」創刊 4月 集会及び政社法公布	久米邦武「神道は祭天の古俗」にて筆禍 石川千代松「進 化新論」金森通倫訳「自由神学」	1・9 内村鑑三不敬事件 5・11 井上哲次郎「帝國と宗 教との關係」(教育時報)	1・23 新潟義永眠 2・11 「日本」発刊、同志社に 一回衆議院選挙施行 9・15 立憲自由党結成 10・7 第 教育勅語頒布 1月より7月まで各地に米騒動起る	2・11 帝國憲法發布 2・11 「日本」発刊、同志社に 最初の青年夏期学校開催	2・15 蘇峰民友社設立「国民之友」発刊 6月二葉亭四 迷「浮雲」 12・25 保安条例公布施行

1916	1915	1914	1913	1912	1911	1910	1909	1908	1907	1906	1905	1904	1903
5	4	3	2	45 大正元	44	43	42	41	40	39	38	37	36
49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36
美的百姓の城を脱す	3月—6月 妻愛子大病	5・26 裏日本を旅行し親戚とも交際を絶つ 特集刊 12月—黒い眼と茶色の眼」刊	3月「みみずのたわごと」刊 に連載し始めたが十一回で中止 満鮮 裏日本を旅行 9月より三カ月間九州	1月「謀叛論」講演	9月 北海道旅行 11月 京都、宇治、奈良に遊ぶ	12・8 「寄生木」刊	3・11 二十八人集に「国木田哲夫兄に与へて僕の近状を報ずる書」を書く	歳村粕谷三五六番地に移る 4月 父一敬受洗	1・25 「黒潮」第二号刊 2・27 東京府北多摩郡千歳村粕谷三五六番地に移る 4月 父一敬受洗	10—11 高(旧制)にて「勝利の悲哀」講演 12・15 「順礼紀行」刊 12・25 月刊「黒潮」第一号刊	8月 夫人と共に富士登山、暴風雨に遭い五日間人事不省に陥る 12月 兄に謝罪 心的革命のため原宿の家を引払う	1・21 英文「不如帰」の序文をかく	1・21 原宿の自宅に黒潮社を設く 2・27 「黒潮」自費出版巻頭に兄に対する告別の辭を掲ぐ 4月 「寄生木」の主人公小笠原善平の訪問をうける
派の理想主義の文学盛んとなる	1月 吉野作造「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」を発表以後デモクラシーの主張強くなる 白樺要求 11・15 賀川豊彦「貧民心理の研究」 1・18 対華二十一ヶ条大戦による未曾有の好景気展開	8・23 日本対ドイツ宣戦布告 全国協同伝道開始 基督教青年会同盟軍慰問開始	1月 森鷗外「阿部一族」 11月 日本宗教大会	7・30 明治天皇崩御 9・1 友愛会結成 憲法擁護運動起る 内務大臣の主催で神仏基三教会同行わる	1・18 幸徳秋水等十二名に死刑宣告 1月 有島武郎「或る女」 9月「青踏」創刊	4月 「白樺」創刊 5月 幸徳事件 8月 韓国併合	メソジスト教会組合教会共に振興拡張運動展開 賀川豊彦神戸新川の貧民窟に入る	戦後恐慌 失業者八十万 1月 長谷川天溪「現実暴露の悲哀」 1月正宗白鳥「何処へ」	1・15 日刊「平民新聞」創刊(四ヶ月存続) 2・22 社会党に結社禁止命令 9月 田山花袋「蒲団」 世界経済恐慌 自然主義文学確立	2・24 日本社会党結党 3月 「社会主義研究」 3月 島崎藤村「破戒」	9・5 日露講和条約調印 9・15 日比谷焼打事件 教 会十数ヶ所焼かる 11・11 「新紀元」発刊	1月以後木下尚江「火の柱」 2・8 日露戦争開始 8 月以後木下尚江「良人の自白」 基督教青年会軍慰問のため満州に天幕伝道	5・21 藤村操自殺 11・15 幸徳、堺ら「平民新聞」発刊 内村、幸徳、堺ら非戦論を唱う

1928	1927	1926	1925	1924	1923	1922	1921	1920	1919	1918	1917
3	2	15 昭和元	14	13	12	11	10	9	8	7	6
	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50
2・11 遺著「富士」第四巻刊	18日 保に赴き9月17日 永眠	2・15 「富士」第二巻刊	5・10 夫妻共著「富士」第一巻刊	9・1 「太平洋を中にして」を編纂 処分に就いて「天皇陛下に願ひ奉る」を書き、東宮大夫に献言、「死刑廃止」及び「死刑廃すべし」を書く	4・21 「竹崎順子」刊	九州、朝鮮旅行 3月 新島襄、山本久栄の墓に参る	3月 「日本から日本へ」刊	3・8 帰朝	1・27 第二のアダム(日子)イブ(日女)の自覚にも え新紀元第一年として夫人と共に世界一周の旅に出る	柏谷の邸を恒春園と名づく 4月「新春」刊	3・15 「死の蔭に」刊
	第一次山東出兵 ミッション成立 法的神学紹介	3・6 金融恐慌 3・5 労働農民党発表	4・29 治安維持法公布 日本プロレタリア文芸聯盟創立	2・1 憲法擁護国民大会開催 教会創立五十年を祝す ト教徒結束して抗議す を読み始む 新感党派拾頭	6・27 虎ノ門事件日本基督教連盟成立	1月 有島武郎「宣言一つ」 治郎ら日本農民組合結成 正久日本基督教会五十周年特別使節として欧米訪問	7・7 賀川豊彦その実行委員となる の出發	即日解散 賀川豊彦「死線を越えて」 戦後大恐慌 小作争議頻発	2・9 東京で普選期成大会 問題研究一発刊 9・30 日本労働総同盟友愛会と改称	6月 武小路実篤「新しき村」建設 出兵宣言 富山に米騒動起り全国に波及 重治、木村清松ら再臨運動を始む	2月 ロシア革命勃発 百年記念祭開催 新約聖書改訳完成 宗教改革の四
	芥川竜之介「河童」 同志社に労働 魚木忠一弁証	12・25 大正天皇崩御 文部省	5・5 普通選挙法公布	6月 タゴール来朝組合 アメリカの排日法に対してキリス 高倉徳太郎とその門下弁証法神学	9・1 関東大震災	7・15 日本共産党創立 植村	3月 倉田百三「愛と認識	12月 八幡製鉄スト 日本社会主義同盟結成	3・1 河上肇「社会	8・2 シベリア 内村鑑三、中田	